

一	①	線質	②	用筆	③	運筆
	④	技能	②	表現形式	③	感興
二	①	圧	②	扱	③	賜
三	①	當	②	盡	③	思
四	①	紙の規格のこと。全紙の縦四分の三の大きさ。(約縦百三十六×五十一cm)	②	江戸時代末期を代表する三人の能書家。市河米庵、巻菱湖、貫名松翁をいう。	③	書を書くための法則のこと。執筆法(用筆法、章法、結構法、用墨法)などが相互に関連して成立している。
五	古人の書は、その人の心はえが筆墨の間にあふれ出ていて、その妙味は心の赴くままに、自然に形がたまわるところにある。					
六	①	妹至帖	②	王琳墓誌	③	屏風土代
	④	東晋時代	②	唐時代	③	平安時代
七	①	王羲之	②	顔真卿	③	小野道風
	④	米芾	②	伝小大君	③	黄庭坚
八	①	大雁塔(慈恩寺の大雁塔)	②	龍門石窟	③	漢中博物館
	④	記号(A)	②	記号(B)	③	記号(I)
九	生徒の作品に対する第一印象を大切にする。題材に関する言葉の遣い方や、表現の方法、書いた人の感興や意図は注目する。その後、分析的に鑑賞に移る。全体的に細身で速くも感じさせ、墨の潤みを生かした「線質」にしている。全体構成においては白の部分を多く取り、空間の広さを感じさせる。作者についても紹介する。このような諸要素について学ばせ、その後自由に鑑賞させる。この指導によって鑑賞する楽しさを味わわせたい。					

各2点×10
20点

各1点×4
4点

各1点×3
3点

各1点×3
3点

6点
6点

各1点×12
12点

各1点×6
6点

各1点×6
6点

15点
15点

30点
30点

30点
30点

125点
125点

得点
125点

受番
125点